

豊胸術と医療補助アートメイク

森 克哉

Katsuya Mori

渋谷の森クリニック

豊胸術後の合併症として、感染、血腫、リップリングや左右差などが一般的に挙げられる。一方で豊胸術による乳輪の拡大も時として起こり得るが、一般的に医療者は問題視しない傾向にある。しかし、大きな乳輪を受け入れることが出来ず、乳輪縮小術を受ける方がいる。乳輪縮小術は広く行われている手術であるが、Caucasionとは異なり、日本人は茶系の乳輪を有することが多いことから、白い瘢痕とのコントラストが強く、術後の瘢痕が目立つ傾向にある。当院ではこのような症例に対してパラメディカルピグメンテーション（医療補助アートメイク）を用いることで、良好な結果、高い患者満足度を得ている。

パラメディカルピグメンテーション（医療補助アートメイク）とは、皮膚の浅い層に医療用の細かい穴を開け、専用の色素を入れることで皮膚に色を付ける施術のことです。これは医療行為にあたり、厚生労働省の通達により「医師以外の者が行うのであれば、保健衛生上気概の生じる恐れのある行為である」とされ、医師免許を持たない者が業として行えば、医師法違反となる。針を刺す方向や深さが少し違うだけでも結果に差がでる繊細な手技であり、高度なテクニックが求められ、施術者による差がやすいものである。

本発表では乳輪部へのパラメディカルピグメンテーション（医療補助アートメイク）の有用性と若干のテクニックを紹介する。